

雄勝地域の

# 稲作だより

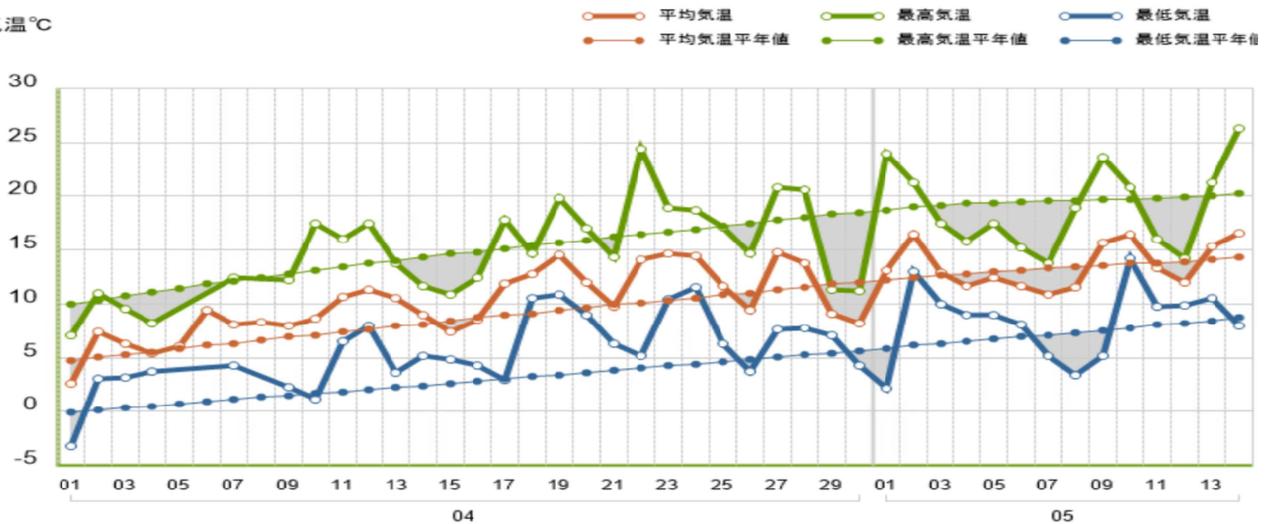
令和7年5月16日発行  
雄勝地域振興局農林部  
農業振興普及課  
TEL 0183-73-5180  
FAX 0183-72-6897

## 苗の徒長・老化に注意！適期移植の徹底を！

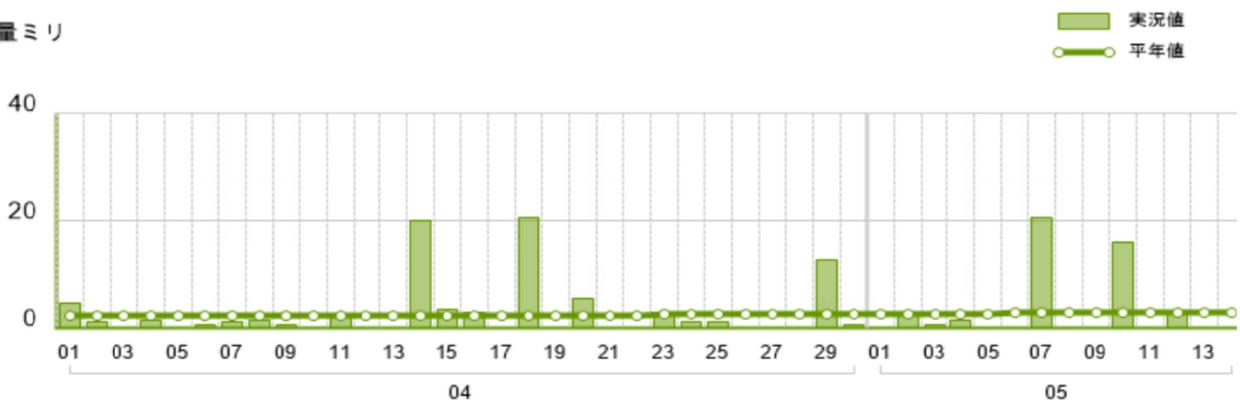
育苗日数の延長が予想される場合は  
苗の徒長・老化防止対策を実施しましょう

【これまでの気象経過】（アメダス湯沢：令和7年4月1日～5月15日）

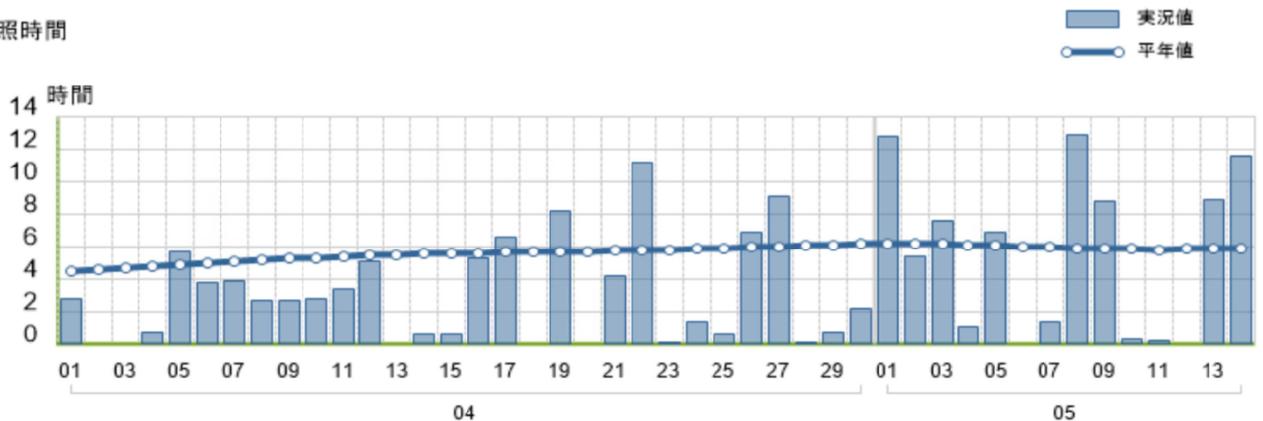
気温℃



降水量ミリ



日照時間



## 【東北地方 1か月予報】（5月15日 仙台管区气象台発表）

- ・平均気温 高い見込み（低10%、並30%、**高60%**）
- ・降水量 ほぼ平年並の見込み（少30%、並30%、多40%）
- ・日照時間 ほぼ平年並の見込み（少40%、並30%、多30%）

## 【雄勝管内の作業・生育概況】

播種作業は、始期4月19日（平年並）、盛期4月25日（平年並）、終期4月29日（平年より1日早い）となりました。

この期間、周期的な降雨や曇天となる日が多く、気温は平年よりやや高く推移しました。高温による苗やけや出芽不良等は見られず、生育は概ね順調に推移していますが、ハウス内温度の急上昇に、ハウスの開閉操作が遅れたところでは葉先やけや障害が見られました。

## 【当面の主な技術対策】

### 1 育苗管理について

苗の生育は概ね順調となっていますが、降雨が続いたことによって耕起作業が進まず移植まで日数を要する場合は、下記の対策を実施し、苗の徒長・老化を防ぎ充実を図りましょう。

#### ○育苗日数の延長が予想される場合の苗の徒長・老化防止対策

- ①育苗箱へのかん水は、朝方に十分に行い、かん水の回数は出来るだけ少なくしましょう。日中のかん水は、床土が白く乾き、苗がしおれる部分のみとし、午後3時過ぎはかん水は行わないようにしましょう。
- ②日中は換気を徹底し、移植1週間前からは夜間も積極的に外気にあてるようにしましょう。  
ただし、強風時に苗に直接風が当たると乾きやすくなるため注意しましょう。
- ③ハウスの内側に寒冷紗等を設置し、遮光により苗周辺の温度上昇を抑えましょう。
- ④播種後30日（葉数3葉程度）を過ぎると、肥料切れにより苗が黄化してくるので、老化防止のため、箱当たり窒素成分で1g程度の追肥をしましょう。
- ⑤苗が軟弱徒長し、移植作業に支障がある場合は、剪葉を行うとともに、下葉のムレなど、苗の老化を回避しましょう。

※剪葉する場合の位置は、徒長苗の場合は第3葉の中央部とし、第4葉に傷をつけないよう、葉身の半分を残して、剪定用はさみ等で草丈15cm程度にカットします。

※剪葉した苗はいもち病が発生しやすくなるため、防除基準に従って、本田期の薬剤防除を確実に実施しましょう。

※苗が多少伸びていても、移植作業に支障がなく、しっかりした苗質であれば剪葉は不要です。

本年は3月後半から降雨日が多く、十分に乾いていないほ場が多く見られます。このため、移植後の土壌窒素の発現や、土壌還元の進行（稲わらの分解）が例年と異なり、初期生育に影響を及ぼすことも懸念されます。健苗の移植を基本とし、初期生育の確保のために適切な栽培管理に徹底しましょう。

## 2 移植後の水管理について

6月上旬から中旬は、有効茎を確保するために重要な時期です。分けつの発生を促進させる水管理で、初期生育の確保に努めましょう。

### (1) 浅水管理による1次分けつの発生促進

1次分けつの発生を促進し、生育初期の茎数を適正に確保するため、活着後は浅水管理とし、水温と地温を高めましょう。分けつは、昼夜の日較差（1日の最高気温と最低気温の差）を大きくすることで発生が促進されます。

入水は、用水温と水田水温の差が小さい、早朝か夜間の時間帯に実施します。

### (2) 異常還元（ワキ）対策

高温が続き、異常還元（ワキ）が発生した場合は、一時的に夜間の落水管理（2日間程度）を行い、根の活力維持に努めましょう。

## 3 いもち病対策

### (1) 補植用余り苗の早期処分

補植用余り苗は、周辺ほ場への「いもち病」の伝染源になるため、直ちに泥に埋めて処分してください。処分が遅れると、余り苗内で感染と発病を繰り返し、気象条件が整うと一気に水田内へ伝染して、葉いもちの多発生に繋がります。

### (2) 葉いもち防除

#### ①水面施用剤による防除

例年、6月下旬～7月上旬にかけて、いもち病の感染好適日が出現します。水面施用剤（オリゼメート粒剤など）を散布する防除計画の場合は、6月15日頃を目安に散布してください。

#### ②余り苗や水田内で発病を確認した場合

直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン剤またはノンブラス剤）を茎葉散布しましょう。これまでに葉いもち防除剤を使用した場合でも、速やかに茎葉散布を実施してください。その後、必要に応じてビーム剤を追加で散布します。

## 4 雑草対策

- ・ 除草剤によって適用雑草や使用時期の目安が異なるため、雑草の種類と発生量に応じて、適切な除草剤を選択し、組み合わせ、適期に散布しましょう。
- ・ 雑草は代かき後に発生し始めることから、代かきから移植までの期間が長くなると、除草剤の散布適期が短くなるため、作業は計画的に行いましょう。

- ・ 1キロ粒剤、3キロ粒剤などの粒剤は、散布時の水深を3～5cmとして使用しましょう。フロアブル剤、顆粒水和剤、ジャンボ剤、少量拡散型粒剤（豆つぶ、FG剤など）は、水中での拡散性を維持するため、代かき後の田面の凹凸が少なく、散布時の水深を5～7cm確保できるほ場で使用しましょう。
- ・ アオミドロ等の藻類や表層はく離がほ場の30%以上発生してる場合は、除草剤の拡散性が劣ることから、除草剤の散布は、藻類・表層はく離の発生前から発生初期（ほ場の10%程度の発生）までに終わらしましょう。
- ・ 藻類や表層はく離の発生が多いほ場では、気温の低い早朝や雨の日に水の入れ替えを行いましょう。水管理だけで十分な効果が得られない場合は、中耕機によるかく拌や、モゲトン粒剤などのACN剤を散布しましょう。

## 5 育苗箱等の資材の洗浄、消毒について

もみ枯れ細菌病等の苗腐敗症の発症が見られたところでは、育苗箱や浸種おけ等の資材に病原菌が付着している可能性があります。来年度の再発を予防するため、十分に洗浄し、「イチバン」または「ケミクロンG」での消毒を確実に実施しましょう。

### 【「春の農作業安全運動」実施中！】

- ・ 春の農繁期となりましたが、例年この時期は農作業事故が多く発生しています。
- ・ 過去10年間の県内での農作業死亡事故は46件で、その約5割が4月から6月にかけて発生しています。
- ・ このため、県では4月20日～5月31日までを「春の農作業安全運動月間」として、農作業事故「ゼロ」を呼びかけています。



農業機械に乗車する機会が多くなります。  
農業機械の運転・操作には  
くれぐれもご注意を！

### 【LINEで水稻栽培に関する技術情報を発信しています】

秋田県稲作技術情報LINEアカウント「秋田の米ぢから」では、  
県内の水稻生育状況、水稻・大豆の技術情報、  
異常気象対策等をLINEで配信しています！  
左のQRコードから、ぜひご登録をお願いします。

秋田の米ぢから→  
LINE QRコード



次号の発行は6月中旬頃の予定です。